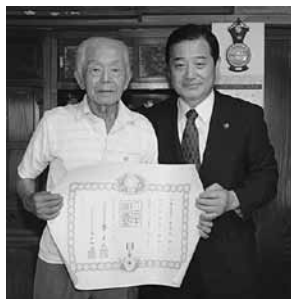


方波見全弘さん 旭日単光章受章



吉川在住の方波見全弘さんが、旭日単光章を受章されました。方波見さんは、北浦村議会議員として3期12年の長きにわたり、村政の運営、発展に寄与し、北浦村の住民福祉の向上に多大な貢献をされました。また、議員の在職期間中には、北浦村議会議長などの要職を歴任され、その功績が認められての受章となりました。

おめでとうございます。

規格外食材を生かそう

玉造生活大学 行方産野菜を使用した料理作り

規格外野菜は、一般的に店頭には並ばず捨てられてしまいます。

玉造生活大学（櫻井和子会長）では、これらの野菜を活用し、料理作りに取り組んでいます。



9月7日（水）、玉造公民館で開催された定例会では、行方産のエシャレットを使用したかき揚げなどを作り、試食しました。

同団体では、今年度、食を通したエコライフ運動を推進しています。

たくさんの善意ありがとうございます

行方市に義援金

- 常陽銀行 900,000 円
- 筑波銀行 100,000 円
- 行方金魚すくいの会 5,000 円
- 銚田のやさしい野菜 島田敦紀 30,000 円
- 麻生五地区お囃子の会 135,390 円



麻生五地区お囃子の会

- サンセットフェスタ実行委員会 6,000 円
- 石岡市御幸通り商店街振興組合 10,000 円

（順不同・敬称略）

9月20日現在



親子で楽しい時間を過ごしました

行方市地域女性団体連絡会 夏休みミニ児童館

行方市地域女性団体連絡会（菅谷京子会長）では、地域の子育て力向上を目指し、ミニ児童館と称した子育て支援事業を展開しています。

8月28日（日）に玉造公民館で開催された同事業には、市内外から親子70名が参加し、人形劇やしゅぼん玉、リズム体操などを通して楽しい時間を過ごしました。

菅谷さんは、「今後も継続して開催し、子どもたちに感動を与えたい」と話していました。

黄金色に実りました

手賀小5年生が稲刈り体験



9月9日（金）、手賀小学校（荒井保雄校長）で稲刈りが行われ、同小学校の5年生21名が秋の収穫を体験しました。

児童たちは、地元の土地改良区の方から、かまの使い方を教わりながら、実のぎっしり詰まった稲を手際よく刈り取っていました。

今回の米作り体験は、国や県、行方市が支援する農地・水保全管理支払交付金を活用して行われ、児童たちは、田植えや除草作業も体験しました。

小学校では、要小学校も同交付金により米作りを体験しました。

化蘇沼稻荷神社夏祭り

奉納相撲・巫女舞

8月25日(木)、化蘇沼稻荷神社で巫女舞や奉納相撲など、秋の訪れを告げる伝統行事が行われ、平日にもかかわらず、大勢の見物客で賑わいました。

今年は両宿区が当番地区となり、祭りの運営にあたりました。



奉納相撲には、武田地区の小学生と成人約60人が参加し、優勝を目指して熱戦を繰り広げました。



今年の巫女舞は、武田小学校の井川奈々子さん(6年)、宮内悠衣さん(5年)、海老澤咲さん(4年)、埴琴乃さん(4年)、六笠葵音さん(4年)の5名が務めました。



小田彩音さん(現原小)が全国3位

第17回全国金魚すくい選手権大会結果報告

8月21日(日)に奈良県大和郡山市で「第17回全国金魚すくい選手権大会」が開催され、小田彩音(あやね)さん(現原小5年)が見事3位に入り、行方金魚すくいの会の関係者などが、伊藤市長に成績を報告しました。

361名が参加した小中学生の部で、52匹をすくって3位入賞を果たした小田さんは、「3位になってよかった。来年は1位になれるようがんばりたい」と意気込みを語りました。全国大会には、13,500人の来場者が詰めかけました。

小学5・6年生がキャンプ体験

はじめてのキャンプ in 白浜

小学生に夏休みの思い出を作ってもらおうと、青少年育成行方市民会議が主催し、「はじめてのキャンプ in 白浜」が8月26日と27日の2日間、白浜少年自然の家で開催されました。

キャンプには市内の小学5・6年生31名が参加し、ジュニアリーダーとして高校生会が小学生をサポートしました。また、行方市子供会育成連絡協議会の役員がキャンプの運営協力にあたりました。

野外炊飯や、キャンドルファイヤー、創作活動などを通じて、児童たちは、たくさんの思い出ができたようです。



食と農について学びました！

北浦幼稚園 食農教育事業

9月6日、農業振興センターで食農教育事業が開催され、北浦幼稚園の園児や保護者約120人が参加しました。

この事業は子どもたちに地元の食べ物や農業に関心を持ってもらおうと、虹の会(齋藤悦子会長)、市北浦鋤頭会議(小林兼一会長)、市北浦農業担い手会(齋藤宗司会長)の3団体が毎年実施しているものです。

園児達はコスモス摘みを楽しんだり、野菜が練りこまれたうどんを味わったほか、午後からはさつまいも掘りなども体験しました。野菜クイズなども行われ、地域農業への理解を深めることが出来た一日となったようです。

寸劇で詐欺啓発

高齢者出前人権教室

8月6日、南高岡農村集落センターにおいて「高齢者出前人権教室」が開催されました。参加者は南高岡ふれあいサロン（代表：大原和子）の皆様です。

巧妙な手口で迫る悪徳商法や、振り込め詐欺の被害に遭わないよう、人権相談員による寸劇が上演され、うかつに話に乗らない、そうだんしてから決める、ことわる時ははっきりと、けいやくやお金を渡さない、「うそこけ」をキーワードに、詐欺と無縁な生活を過ごすアドバイスを受けました。また、判断能力が不十分な方を支援する「成年後見制度」の説明に、安心した生活が続けられることを学びました。身近な問題から、様々な法律に基づく相談を受ける人権擁護委員の活動を知る有意義な機会でした。



行方市総合計画審議会が開催されました

行方市のまちづくり

市では、計画的、効果的な事業を行うために、平成19年度に「行方市総合計画」（10カ年）を策定しました。

前期計画の5年が今年度終了することから、後期計画を策定するため、地域で活躍されている市民など22名の方に審議会委員が委嘱されました。

伊藤市長から貝塚順一審議会会長に、総合計画の後期計画策定について諮問書が提出され、これからの新しい行方市づくりのための協議がスタートしました。また、当日は筑波大学の蓮見孝教授による「新しい公共とまちづくり（ソシオデザイン）」の基調講演が行われ、地方再生の成功物語などの紹介がありました。

行方市観光協会がボランティア事業

パラセーリング体験

行方市観光協会によるボランティア事業として、児童養護施設「道心園東ホーム」、「道心園西ホーム」の子供たちがパラセーリングを行いました。

子供たちは上昇していくパラセーリングに驚いていましたが、最初に体験した子供が空中で楽しそうにしているのを見ると、「次は私!」、「次は僕!」と順番を決めていました。

子供たちに感想を聞いてみると「勇気を出してやってみたら、すごく楽しかった」、「ちょっとこわかった」、「おもしろかった」とうれしそうに話してくれました。



北浦広葉樹の森 下刈り体験事業

緑を守る大変さと大切さを実感

8月20日（土）、長野江地区の北浦広葉樹の森において、地元の武田小学校、北浦童太鼓の児童及び保護者、並びに森林ボランティア団体等の参加による下刈り体験を実施しました。

北浦広葉樹の森は、平成17年の第56回全国植樹祭の開催の気運醸成と県民参加の森林づくり活動の推進を図るために、平成15年3月にヤマザクラなどの苗木を植栽し、その後、毎年下刈り作業を実施してきました。この下刈り体験により、児童たちは緑を守る大変さと大切さを実感した様子でした。その後、スイカ割りも賑やかに行われ、参加者の草刈りの疲れを癒しました。

弓道夏季錬成大会

8月21日(日)、玉造工業高校弓道場

高校の部

【射込優勝】米川修平

【団体優勝】草野敦生 田宮央隆 木村孝之

【金 的】草野敦生

一般の部

【射込優勝】長南瑛子

【団体優勝】佐藤至學 齊藤勝美 宮本浩匡

【金 的】元木康晴

第5回行方市長杯スポーツ少年団バレーボール大会

8月27日(土) 麻生運動場体育館

【優 勝】Wink(龍ヶ崎市)

第5回行方杯(総の宮)ソフトテニス大会

8月28日(日) 北浦運動場テニスコート 他

一般男子の部【優 勝】横田・高野 組(玉造・青葉クラブ)

一般女子の部【優 勝】磯前・角田 組(波崎柳川高)

成年女子の部【優 勝】穴戸・佐藤 組(鹿島クラブ)

シニア45の部【第3位】高野・郡司 組(玉造クラブ)

シニア55の部【第3位】野本・門井 組(玉造クラブ)

シニア65の部【優 勝】森本・山口 組(小見川クラブ)

シニア71の部【優 勝】寺田・国井 組(結城クラブ)

夏季グラウンドゴルフ大会

8月30日(火) 北浦運動場第1グラウンド

【優 勝】小沼進【準優勝】真家幸治【第3位】理崎なか



行方市ソフトボール連盟杯大会

9月4日(日) 浜野球場他

【優 勝】グロリアス 【準優勝】新宮同志会

【第3位】北浦中PTA 【第3位】昭和ジャンプ

「なめがた狂歌」授賞式

今年もたくさんの応募ありがとうございました

9月18日(日)霞ヶ浦ふれあいランドにおいて「第3回なめがた狂歌」授賞式が開催されました。その後、霞ヶ浦ふれあいランド内狂歌の小径に場所を移し、県知事賞作品の歌碑除幕式もあわせて行われました。

3月11日に発生した東日本大震災に対する復興への願いをこめて全国より狂歌を募集しましたところ、北海道をはじめ被災地である東北、さらには九州までの全国各地より、また8歳から95歳までの幅広い年齢層の610名の方から1307首の作品をご応募いただき、第1回・第2回を上回る応募者数となりました。

茨城県知事賞

要石鯨の頭押えかね陸奥常陸は大地震(おおい)揺れる
行方市山田 羽生成一郎

茨城県議会議長賞

何にも可も嫁にすぎりし日々なれど狂歌詠むこと持つを幸とす
行方市根小屋 平山なか

茨城県教育委員会教育長賞

友達と毎日通う学校は音符のようだ黄色い帽子
現原小学校 井坂星哉

行方市長賞

見渡せば瓦礫の山の牙のあと人の生活(くらし)を根こそぎ攫う
行方市浜 荒井節子

行方市議会議長賞

どぶろくに酔って口説いた春日祭(かすがさい)縁で結ばれ喜寿と古希
鉾田市鉾田 川又浩

行方市教育委員会教育長賞

友達のうわさ話をぬすみ聞きよく聞いてみれば自分の話
麻生中学校 坂本菜由

その他

秀逸18首・選者賞4首・入選123首が選ばれました。

【参照】「狂歌」とは、五七五七七の和歌様式に社会風刺や滑稽・ユーモアを詠むもので、行方市でも江戸時代に旧麻生藩の藩士を中心に盛んに行われていたものです。

